

「ふふっ、ランファさん……そんなに緊張しなくていいのよ?」



「……あら、もうこんなに濡れちゃってるじゃない♡」





「騎士さんのキス、こんな感じよ。舌絡めて……んっ♡」

「えっ、恥ずか……んむっ……!」







♡♡♡♡♡

♡♡

♡♡

!?!

「ひゃあっ! ミ、ミソラちゃんっ……そこ、だめえ……っ!」

びゅん♡

びゅん♡

ぎゅっ♡



「騎士さんは指をゆっくり入れて.....

奥までクチュクチュってかき回すの。」

んんんんん

んんんんん

んんんんん

びん

びん

ぎゅっ♡



「見て? もう指がヌルヌルで絡みついて離れない♡」

♡♡♡♡♡



♡♡♡

♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡



「騎士さんはね、次はここ……優しく包むように揉んでくるの。」

ぎゅっ♡



「でもだんだん力が入ってきて……」

乳首を指でヨリヨリって転がしたり、軽く摘んだり♡」

ぎゅっ♡



「ほら、ランファさん……もうこんなに硬くなってるじゃない」

ランファさん
ランファさん

ぎゅっ♡

♡♡♡♡♡

!?!



んっ
んっ
んっ

んっ

んっ

「変な感じ……おかしくなる……あっ、んんっ……!」

んっ
んっ
んっ

んっ♡



「イクイッ!!」

いっ
いっ
いっ

ぎゅっ♡

いっ
いっ
いっ



「ふふっ、先にイッちゃったのね……可愛い♡」

「あ……ああ……っ」

ぎゅっ♡



「でも、まだ終わってないわよ？これからが本番なんだから……
騎士さんの本当の……これよ♡」

!?
「えっ……!? な、何これ……!?
両方……入るの……?」



「ふふ、驚いちゃった？これで繋がって、
一緒に騎士さんを感じられるのよ♡」



「最初は怖いかもしれないけど……ほら、ゆっくり入れてあげるから……
んっ……入ってきたわ。ランファさんも、深呼吸して……」



「騎士さんが入ってきたら、こんな感じ……んっ！」

「ひゃあっ……！ 入ってる……お腹の中、熱い……っ」

ズブッ

ズブッ



「そうよ。一緒に腰振ってみて？」

「ミソラさん、一緒に……動いてるの……？」

びちゃ♡

びちゃ♡



「騎士さんがこんな風に……一緒に腰を振るのよ。
私に合わせて……ゆっくり、大きく……」

「あっ……ああっ! ミソラさんの中、感じる……っ」

ジジ
ジジ

びちゃ♡

びちゃ♡



「いいわ……ランファさん、もっと激しく……！」

「熱くて……奥まで繋がってるみたい……っ！
んっ、動いちゃう……腰、勝手に……！」

ニッ
ニッ

ニッ
ニッ

びっ
びっ

びっ
びっ

ニッ
ニッ



「んあっ♡ 私ももう限界……ほら、イキそうでしょ？
一緒にイこう……一緒にイっちゃおう♡」

「ミソラちゃんっ、一緒に……一緒にイきたいっ……!!」

びっしょり♡

びっしょり♡

びっしょり♡

びっしょり♡

びっしょり♡



「イク……イクイクっ……! あああっ!!」

「イクっ、イクっ、イクうううっ!!んあああああっ!!」

びゅん♡

びゅん♡

びゅん♡

びゅん♡



「ふふ……大丈夫よ、ランファさん。初めての激しい快感だと、
誰だってこうなっちゃうものだから……気にしないで？」

「……は、はあ……私……
こんなにいっぱい……出ちゃって……」

びちゃ♡

びちゃ♡



びちゃ♡
びちゃ♡



「……え？ランファさん……本気で言ってるの？」

「……ミソラちゃんとも……また、
こうして……いい、ですか……？」

びちゃ♡

びちゃ♡

「いいのよ……今夜はまだ終わらないんだから。」

「これからずっと……一緒に、ねっ。」



「ん……ミツラちゃん……また……熱くなっちゃう……」

